

(5) 学校の取り組み

全職員で、担任を支える体制を整え、いじめの解決に努めた。更に、善後策として、全家庭に対して人権擁護の立場からも、いじめ問題への理解を呼びかけた。

全校体制での担任支援のために、次のことを実践した。

- ・ S子への温かい言葉かけ、見守り
- ・ A子たちの不満や不安解消への援助
- ・ 学級の人間関係づくりの資料提供
- ・ 学年主任の家庭訪問への同行

全家庭に対し、いじめ問題への理解を深めてもらうため、以下の方法をとった。

- ・ 学年通信，PTA会合での啓蒙活動

5 まとめ

本事例では、担任が、「仲間はずれ」「無視」を受けていたS子の孤立にいち早く気づき、全校を挙げての支援体制に支えられながら迅速かつ適

切に対応したため、いじめは深刻化せずに解決しました。また、問題行動の解消という表層的な解決に留まらずに、「観衆」や「傍観者」のいない学級づくり、家庭への人権擁護の啓蒙にまで指導援助を進めたことは、いじめの根本的な解決、すなわち、今後のいじめ防止への取り組みとして有効であったと考えられます。

S子は仲間の輪の中に戻りました。学級も元の明るい雰囲気を取り戻しています。



「仲間はずれ」「無視」型のいじめに対する児童生徒への指導援助の留意点

- この型のいじめでは、いじめられている側は、身体的な外傷は負わないが、「孤立」という見えにくく深い心理的な傷を負う。意識的な観察によって早期発見に努め、その辛さを十分に受け止め支えていく必要がある。
- いじめている側は、暴力や強制を伴わないため、他の型のいじめに比べいっそういじめの意識が薄い。いじめる側の不満や不安という心の問題を解消すると同時に、いじめられている側の心の痛みにも目を向けさせる指導援助が必要である。また、ストレスの多い現在の社会では、対象を替えて繰り返される根の深いいじめであるため、事後の観察を怠らないようにすることが肝心である。
- 周囲の子どもたちも、いじめる側に安易に加担する傾向がこの型では強い。日常から「観衆」や「傍観者」を生まない学級づくりを推進することが、予防策として大切である。
- 教師や保護者も、この型のいじめには、「強くなれ」「暴力を受けた（振った）わけではない」など、誤った対応をとる場合がある。心身が傷つく行為は全ていじめであると認識し、適切に対応すべきである。